

令和2年度第1回三重とこわか国体・三重とこわか大会開催推進本部 概要

- 1 開催日時：令和3年1月26日（火）9：05～9：20
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 コロナ禍における三重とこわか国体・三重とこわか大会開催に向けた取組について

議題2 実施本部暫定案

議題3 三重とこわか国体・三重とこわか大会開催に向けた広報・県民運動への協力

●野口総務企画課長

資料に沿って説明

●辻国体・全国障害者スポーツ大会局長

事務局の説明のとおり、本日のメインは議題2の実施本部の体制づくり。ご覧いただいたとおり、両大会ともに大量の人員が必要となる。先催県においても多くの職員にご協力をいただいている実態がある。ボランティアも十分に活用させていただきながらやっていくが、開・閉会式、障スポの受付や案内等、全ての場面において、一定の裁量、責任をもとに指示を下す職員がどうしても必要となり、ここはボランティアという訳にはいかないの、従来から多くの職員の皆さんに協力をいただき、助けていただいているのが実態である。

コロナで規模は縮小させていただき、できるだけ職員の皆さんの負担にならないよう工夫に工夫を重ねたが、それでも多くの職員の皆さんのご協力をお願いすることとなる。議題2のことについて、重点的にお願い申し上げたい。

☆大橋子ども・福祉部長

体制は、先ほど局長があまり負担をかけずにと言っていたが、オール県庁でやらなければならないことなので、我々も負担ではなく、業務として取り組むべきと思っているので、必要なことは、どんどん発信していただきたい。

そのうえで、ただ、審判やボランティアのことを考えると、参加する本人もさることながら、送り出す職場、経営者の方々の協力、理解が重要となってくる。そこについては、団体の組織、一般企業向けのPR、ネットワークなどありとあらゆるところに両大会の価値や意義を充分理解していただかないと、コロナ禍においては、ボランティアや審判が集まらないということも想定されるため、そのあたりのPRを一層強く打出していただきたい。我々も我々の業界には打ち出していくのでよろしく願いしたい。

●辻国体・全国障害者スポーツ大会局長

こういうコロナの状況であるからこそ、両大会に理解や共感をいただく取組を一層進めていかなければならないと思っている。ボランティアについても、所属企業のいろいろなご理解・ご支援のもとのことであるので、今後も一層そういった取組を進めていきたい。

☆鈴木知事

今日は実施本部の話がメインであるが、そもそも、コロナ発生後初めての国体・大会となるため、参加する人も三重県民の皆様にとっても、安全・安心な両大会にすることが大前提。全部局でしっかりと協力をしてほしいと思う。

昨年は鹿児島国体が中止、全国障害者スポーツ大会だけ見れば、その前の茨城大会も台風で中止となった。そういう意味でも、なんとか両大会を開催してほしいと全国のアスリートの皆さんも思っていたいただいていると思うので、兎にも角にも安全・安心な大会にすること。

今、愛知・岐阜で冬季大会を開催しているが、その移動などで不安に思っている方もいらっしゃるかもしれないので、両大会開催にあたっては、そういった県民の皆さんや参加する方々の不安の払拭・理解の促進に向けて、全力で各部局が協力をして取り組んでほしい。

先ほど大橋部長からあったように、全部局が関わりのあることであると思うので、それぞれのネットワークをしっかりと活用して、不安払拭、理解促進に向けて全力をあげてほしい。

実施本部については、4月で定期異動等があるかもしれないが、直前で業務調整しても、本来業務ができなくなったら意味がないので、中長期的な長い視野でなるべく早く業務を調整すること。55%の職員に協力いただくが、(先ほど大橋部長も業務とってくれたが) 普段やっている業務も両大会の業務もしっかりと両立できるように、全てにおいて県民の皆さんへの行政サービスが停滞することなく、且つ両大会が安全・安心に大成功となるよう、中長期的に業務の調整をしっかり図って進めていってほしい。

いずれにしても、大変困難な中であるが、空振りを恐れずに思いつく対応はどんどんやってほしい。感染状況がどうなっているかわからないが、とにかく空振りを恐れず、やれること、やるべきこと、やったほうが良いと思うことは、どんどんみんなでやっていってほしい。

前例のない開催であるから、そういう意味で新しいチャレンジである。みんなで協力をして、オール三重で乗り切っていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。